

## 49 期(2023 年度)の振り返りと 50 期(2024 年度)の展望

### はじめに

令和 6 年の幕開けと同時に起きた能登半島地震は、死者・行方不明者を合わせた数が 250 人を超える大惨事となり、正月気分を一変させることとなりました。この自然災害から得られた教訓は、被災者への弔いの意味でも弊社における BCP の検証に役立てなければならないと感じております。道路や電気、水道の長期的な寸断状態の時、売上や利益に寄与する優先的に復旧すべき商品とサービスは何なのか。また、いつまでにどの程度復旧させるかの目標を立て、業務に必要なリソース(人・物・金)をどの様に確保するのか。宿題を沢山いただいたと感じております。自然災害の多いこの日本において、事業継続をさせる事の難しさと、如何に人類が築き上げてきた社会基盤が自然の猛威に対して無力なのかを思い知らされる出来事ではありましたが、防災資材や災害復旧資材を作るメーカーとして、今後も安心を提供できるよう尽力して参ります。

2020 年より世界を震撼させ、死者数は延べ 8 万人とも言われた新型コロナウイルス感染症も、2023 年 5 月より季節性インフルエンザと同様の扱いである「5 類」に引き下げられました。長引く円安も相まって、徐々にではありますが、ここ関西地方にはヨーロッパからのインバウンドの姿も多く見受けられ、街には活気が戻ってきた一年でありましたが、コロナ禍における政府の資金繰り支援で生き残ってきた中小企業の倒産件数は 8292 件、前年度対比 36%増と、人手不足や物価高で維持できなくなるケースが目立ち、時代に合った急速なニーズ対応能力が求められる年でもありました。

また、日本人が世界で活躍する年でもあり、中でも大谷翔平の活躍は目を見張るものがありました。WBC での 3 年ぶりの優勝やアメリカメジャーリーグでのホームラン王、その後ドジャースへの移籍金が 1015 億円というプロスポーツ史上最高額の超大型契約を果たし、何かと暗いニュースが続く日本において、勇気と希望を与えてもらえたと感じています。

### 総括

49 期の売り上げは前年度対比で一般建材部門が 2.1%増の 3 億 9145 万円、製造直売が 8.8%減の 2 億 5740 万円で、売上高合計は 2.5%減収の 6 億 4885 万円となりました。また、営業利益は 234%増の 4417 万円、経常利益(税引前)は 9613 万円となり、22%の増益となりました。

鋼材価格は一昨年度に引き続き、高値で推移しており、ロシア・ウクライナ情勢をはじめとする、中国経済の情勢などを考えれば、今後も高値で安定するとの考え方が一般的になっています。一方、メッキ価格と連動する亜鉛地金価格は 20~30%下落しているものの、輸送費などの高騰が影響し、50 期は昨年同様の動きであると考えています。

本年は物流・運送業界を取り巻く環境も大きく変わる年であり、いわゆる「2024 年問題」と向き合わなければなりません。全体に占める長距離配送の品は少ないものの、仕入れ部品等あらゆる物資が物流を通じて届けられる事を考えれば、変化に応じた敏速な対応を取らなければならないと考えております。

## 財務的側面

49 期も財務指数は健全な数値を示しています。代表的な数値を以下に示すと、流動比率:822.19%、当座比率:616.53%、固定比率:55.8%、自己資本比率:88.16%、売上高経常利益率:12.88% などとなり、依然として高い安全指数を維持しています。

47 期から、流動資産の分散化を進め、49 期も多額の運用益が経常利益を押し上げる結果となりました。今後も長期的な視野を持ち、違う分野にも投資・運用を行いたいと考えております。また、利益率が高く、現金決済である新製品の販売が好調であったことも、財務内容の安定に大きく寄与した結果となりました。

## 製造部直売の側面

49 期(2023 年度)の製造部直売売上高は 2 億 5740 万円で、前年比 91.2%、2484 万円の減収となりました。

製造部直売扱いとして大手防災土木商品メーカー様 2 社とお取引があり、例年同様に多くの製作案件を頂いたことに加え、両社様ともに新商品開発のお手伝いをさせて頂く機会に多く恵まれた一年となりました。場内の試験ヤードをご利用頂き、様々な商品の施工性試験や組立試験に立ち会えたことは、当社にとっても大変勉強になる有意義な経験でした。その中でも、設計開発段階から材料選定や加工方法などで様々な意見交換を行った商品が実際に発注され、当社で製作したのち全国各地の施工現場で使用され始めたことは非常に感慨深いものがあります。今後も災害復旧の一端を担う者として、責任の大きさを感しながら製作に取り組んで参ります。

2023 年度の全国の土砂災害発生件数は 1468 件と前年の 2 倍近い件数となりましたが、土石流と地すべりは前年同様となった一方で、がけ崩れが 1286 件を占めました。6 月初旬の台風 2 号による和歌山・静岡・愛知への被害、6 月下旬の九州豪雨、9 月の台風 13 号による千葉・福島への被害が大半でしたが、特に和歌山県の土石流災害復旧案件については今後当社が携わる製作案件が出てくるのではないかと予想します。また、元日に発生した能登半島地震においては、石川、新潟、富山の三県で計 400 件以上の土砂災害発生が確認されており、被災地の皆様が一日でも早く安心・安全な生活を取り戻されることを心より願っております。

## 建材販売の側面

49期の売上げは、3億9145万円と前年度対比2.1%の微増となりました。

新製品である浮棧橋は、大型物件や、ふるさと納税での受注で湧いた48期には大きく及ばなかったものの、3982万円の売上げがありました。49期は、ニーズの多い電気設備や水道設備を棧橋上に設置できる給電給水BOXなどの開発を行いました。浮棧橋の長年の販売経験から、多様なニーズにも応えていける性能と品質、そして魅力ある価格を引き続き提供して参りたいと考えています。

また、鋼製鳥居の受注は598万円と前年度対比25%減となりましたが、現在進行している物件や、年明け早々に起こった能登半島地震の影響により、北陸地方はもとより、信越地方や中部地方に至るまで、多くの石製鳥居が倒壊したことから、50期は1000万円を超えてくと予想しています。

中小企業の消防設備の不備に焦点を当てた商品である防火水槽が漸く動き出し、49期は三物件で計492万円の売上げがありました。特に、東大阪市で設置された防火水槽は、従来使い勝手の無かった幅60センチの場所に設置したことで、土地の有効活用に寄与出来たと同時に、今後の防火水槽の提案に大きな自信となりました。

コロナの終息と共に、キャンプブームも成熟期から衰退期へ移行してきた様です。キャンプ用品全般の売上は、キャンピングトレーラーの売上も含め前年度対比32%ダウンの2845万円となりました。

焼き芋機は49期も三年連続で1000万円を超える売上げとなりました。49期はプロ用3段式の上位モデルをラインアップし、オークションサイトでのシェアをほぼ席巻したと感じております。今後は、新たな市場での販売を開始し、より多様なニーズにお応えできるよう、今後は焼き上げた芋を陳列できるようなショーケース付きを開発したいと考えております。

## 人的側面

49期もインターネット販売など、販売形態の多様化に対応する為、2月より営業業務課に1名増員いたしました。元社員であり即戦力となって、持ち前の明るさでムードメーカーとしても活躍してくれています。

また、11月より製造部にも優秀な社員が1名加わりました。全ての仕事の流れを把握する為、現場での研修を終えた後、品質保証課の仕事を任せたいと考えております。

11月には、品質保証課で長年勤めて頂いた社員が定年を迎えましたが、引き続きパート職として協力して頂くことになり、戦力を落とすことなく50期を迎えることとなりました。

50期は、1月にベトナム人特定技能生が1名帰国し、続いてインドネシアから新たな技能実習生2名を受け入れる事となり、製造職員も実質2名の増員となりました。

新しい国からの受け入れで、言葉の壁や既存実習生との相性など不安な事も多かったのですが、コミュニケーション能力も高く、早く仕事を覚えて頂けるよう教育に力を注ぎたいと考えております。

## 製造設備・施設側面

49期の設備投資は48期の大きな設備投資から一服感があり、新しい実習生の受け入れに当たり、寮のリフォーム工事に350万円、D棟のホイスト追加に387万円、室生工場の屋根修繕工事に700万円、パソコンなどの事務環境設備に数十万円、機械などの製造設備に数十万円程度の設備投資を実施いたしました。

49期はゼロカーボンカンパニーへの道をスタートさせるべく、地産地消のエネルギー利用の為に蓄電池の設置を予定しておりましたが、「エネルギー効率的利用推進事業補助金」の当選が12月となり、50期に実施がずれ込みました。まずは50期に300万円程度かけて蓄電池の設備を導入致します。

## 終わりに

本年、働き方改革の一環として完全週休二日制を導入致しました。年間休日が130日近くになり労働時間が減少することによって、製造業としてどのような影響が表れるのかは未知数ではありますが、従業員それぞれの家庭において育児や介護など家族との時間が取れ、ワークライフバランスが取れる事により、全従業員が健全で充実感を味わって働ける環境を作れたことは、生産性の向上にも繋がると考えております。仕事は生活を支えるための手段であり、日々の生活が充実する事で、働き甲斐を感じて頂ける職場づくりにこれからも注力して参ります。

また、弊社も会社創設以来50年という節目の年を迎える事が出来ました。これもひとえに皆様方の温かいご支援と激励の賜物と社員一同感謝しております。今後も先人が築いた礎に今がある事に感謝を忘れず、全社一丸となって邁進して参ります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

あなたに出逢えて本当に良かった

代表取締役社長 植平秀次